

僕らの性



ツノツキの一群に攻め込まれた辺境のナガミミの村。
突然の襲撃であつた為守りが薄い中、次々と衛士を務めていたアーチャーは倒れていく。
城門もほどなく破られ、家々は次々と略奪に遭う。
村の守り手の長であつた銀髪のアガミミは、村の民を守る為にその身を捧げる…

『ほ…本当にわたしがかうすれば…』

村の娘たちには

手を出さないでくれるんですか…?』

『ああ、お前ほどの雌に奉仕されるなら、』

他の連中は我慢してやってもいいぜ?』

『お願いします…約束…守ってください…ん…ふう…っ』

細身の体にはアンバランスな程の

巨大に突つた乳房で

略奪者のペニスを包み込む。

羞恥に顔を赤らめつつも、

次第に熱のこもつていく乳奉仕。

極上の乳肉に包まれ、

先を食るようにならぶり尽くされ、

あつけなく略奪者の男根は限界に達する…

『お…つい…いいぜ…っ』

『すげえ乳圧してやがる…っ!』

『ん…っそ…そんな…恥ずかしい事…っ』

『言わないで…ください…っ』

『うるせえよ!』の雌豚がっ!

『この馬鹿でかい乳位しか取り得のねえナガミミの癖に』

『一丁前に恥ずかしがつてんじゃねえ』

『く…ってるぞっ! 顔でしっかり受け止めやがれっ!』

『あ…っや…っ! ああああっ!』

『ふう…っ! すげえよかつたぜ…っ』

『おお…しっかり口で掃除するとは…奉仕のツボわかつてんじゃねえか…』

『ん…ちゅ…う…う…』

嫌悪の中に混じる、今までに感じた事のない熱さを腰の奥底に感じながら、
銀髪のアガミミは精液に塗れたペニスに舌を這わせ続ける…

…必死の奉仕にも関わらずその数刻後約束は破られ、
村中の娘たちが凌辱される事は未だ彼女は知らない…



此処にもまたツノツキの軍団に蹂躙される村があった。
決死の覚悟で守りにつくニンゲンのシールダー達。
しかし略奪者達の圧倒的な力と数に彼女達の盾は脆くも砕け散る。
そして村のあちこちで始まる凌辱の宴。
真つ先に犯されたのは、先刻まで刃を交えていた
守備兵のシールダー達だった。

「はっ！シールダー！たつて数で攻めりやあどうつてことないな！
盾さえ奪えば唯の雌じゃねえか！」

「嫌っ！触らないでっ！嫌っいやいやあああああっ！！」

「つひやお」

鎧の上からでも分かるくらい乳だったか

ナマで見ると流石の迫力だな！

「おお…柔らかくてたまねえ乳肉してやがるっ」

「おら…っ両穴ガバガバになるまで犯してやるから覚悟しな！」

「あっあくっ？」

「ひあああああああああっ！！」

鎧の下に押し隠されていた

真つ白で豊満な肉体を

思うさまに揉み廻られ、

咽び泣く彼女を容赦なく

略奪者達の肉棒が貫く。

濡れてもいない

二つの穴を蹂躙され、

苦痛に嘔く口腔に

更に野太い男根が叩き込まれる…

「歯立てやがったらただじゃおかねえからな…っ
おら気合入れてしゃぶれよっ！」
「んぐんぐんむうううっ！」
「コイツの膣内なかないぜ…っ
ニンゲンにしちゃっけり鍛えてんじゃねえか
良い締め付けしてきやがるっ」
「んっ…んっ…んっ…んうううっ！」

激しい凌辱に彼女の体は悲鳴を上げつつも、

苦痛を誤魔化す様に火照り

愛液を垂れ流し始める。

滑りの良くなつた肉穴を

たつぷりと抽送し味わた後、

略奪者達はどうとう雄の欲望を
彼女の膣内で弾けさせる…

「おら…っ出すぞ…っ！！」

膣内につぶつぶちまけてやるっ！！

「こつちもだ…っ！一滴も零さず飲みよっ！！」

「んっ？んんんんんんっ！！」

「んああああああんんん！！」

「お…おおっ後ろも

ぎゅんぎゅん締めやがって…っ

「コイツ一斉に射精されて感じてやがるっ！！」

「あ…っああ…いやあ…膣内で…膣内でええ…っ

略奪者達の子種を子宮に注ぎ込まれ、

絶望に嘔くシールダー…

しかし凌辱の宴はまだ始まったばかりだった…

……村の広場では村中の娘達が集められ、
略奪者達による凄惨な輪姦劇が繰り広げられる……

『いやあああああつダメエッ！』

『挿れないでっ！いやっあああああああああつ！』

『おお……こいつ処女かよ……』

『ラッキーだぜ……つたっぶり犯してやるからなっ！』

『や……っ！ああおおおっ！』

『うく……っああ……つたず……助けて……』

『誰か助けてよお……っ！』

『誰もこねえよっ！後ろを見な！』

『お前達を守るはずだった女達が』

『犯されてアへっつんのが見えるだろっ！』

『ああ……っやああ……っ♡』

『ら……っ♡おまんこ……っ♡♡♡♡♡』

『ああああ……そんなあ……』

『そんなあ……っ！』

『わかつたろ！お前達は此処で』

『孕むまで俺達に』

『犯されるしかねーんだよ！』

『おら……射精するぞっ！』

『いや……っ』

『いやいやいやいやあああつ！』

村娘の中に注がれるツノツキの子種。

熱く子宮に注ぎ込まれる精液に、絶望の悲鳴を挙げる……

その後ろでは真つ先に凌辱を受け、

両手にも余る数の肉棒を穴という穴に挿れられ、

快樂の渦に墮とされ甘い喘ぎを漏らし続ける

シールドー達が居た。

柔らかな肢体を食られる彼女達の目には

最早守るべきだった村人の姿を映してはいなかった。

凌辱の宴は終わらない……

とあるニンゲンの村落。
村外れの小さな小屋は、むせる程籠もる淫靡な湿気と、蕩ける様な甘い喘ぎで満ちていた。
その中心は一人のツノツキのローグ。
偵察の任務中捕らえられた彼女は、何ヶ月にも渡り延々と凌辱され続けていた…

『ああ…らめえ…も…っ♡
イク…っイっくううううううっ♡
うはははまたイぎやがったこの女っ！』
『もうすっかり体は従順になっちまってる様だなあ！』
『このばかでけえ乳だっつて、ちよっと搾れば母乳しぶかせやがる
本当にいやらしい体になっちまっつたなあっ！』
『んあっ♡やらあああああ…っ♡』

ニンゲンの精液で子宮を常に満たされて
彼女は異種族の仔を孕ませられる。
その上怪しげな薬で以つて母乳の分泌を促されていた。
硬く熱い肉棒でえぐられる蕩けた膣内と、
荒々しく搾られるそのたわわな乳房の敏感な先端の感触。
彼女はただ涙と涙を溢れさせ快楽に嘔び泣く…

『ああ…っもお搾らないでえ…っ♡…ちんび…ちんび…っ♡
きもちよくっつて…おかし…なるよ…っ♡』
『う…っ！射精る…っ！ 妊娠マンコにたっぶり出してやるぞ…っ！』
『あ…っつらめ…だしちゃ…っ♡ また…またっイ…っくううううううっ♡』

……それから彼女が完全に墮ちるまでには、
そう時を要しなかった……

……略奪候補の村が手薄だとこの偵察兵からの報告を受け、進軍したツノツキの略奪部隊。
しかし、村に襲撃を掛けた時彼らが目にしたのは、万全の体勢で、以って防衛に望む堅牢な要塞と化した村であった。
ほどなく退路を立たれ包囲殲滅の憂き目を見る「略奪者」……になる筈だった者達。

弾けんばかりに突った
柔らかすぎる乳肉を揉み廻られ、
たつぷりと脂の乗った腰の中を
熱く硬い肉棒で掻き回される女戦士。
しかし乱暴に廻られる
彼女の身体は何故か熱く火照り始め、
膣内を濡ける蜜に溢れさせ
侵入者に絡みつく。

『くっ離せ！離しなこの下衆共がっ！』

『クソっ暴れるんじゃねえよこの馬鹿力がっ！』

『よしそのまま押さえてろっ』

『こいつのマンコにぶち込んでやるっ！』

『止めっ！くっうっ止めろおオオオっ！』

『は……っ挿ったぜえ！』

『すっげえ雌肉してやがる……っ！』

『膣内のヒダが細かく絡みつく上に』

『この締め付け……っ！』

『チンポが濡けちまいそうだ……っ！』

『くそ……こんなニンゲンなんか……っうあっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『くそおおおおおおおおっ！』

『お……っおおっ？ なんだコイツすげえ
濡れてきやがった……！』
『おいおいアしだけ暴れまわる 女戦士の癖して
一皮向けば ただのマゾ雌牛なのかよっ！』
『あうっちがっ違うっ♡』
『そんな事……あるわけ……っうあああああっ♡』
『だったらなんなんだよこの壁はよっ！』
『子宮も段々降りてきて
俺のチンポ歓迎してくれてるぜっ？』
『嘘だっうそだあああぁっ♡』

強く抵抗しようとする

彼女の意思とは裏腹に、

彼女の豊満な体は凌辱を受け入れ、

乳肉の膣内の奥から
甘い痺れを訴え始めていた……

……脚と腕を頭の上で固定され、成す術なく犯され続けるツノツキの女戦士。その絶望的な状況にも拘らず、膣内からは甘く重い快感が止め処なく溢れ彼女を戸惑わせる。

そしてその快感は、張り詰めるほどに勃起した右の乳首を捻られた瞬間、高みを乗り越え彼女の体全体を甘い痺撃に震わせる。

『んっふうふうふうふうふうっ♡』
『うおっ!? コイツ今軽くだがイッチまいやがったぜ!』
『うっちが……うっち♡ ふっふうふうんっ♡』

『うるせえよ膣内きゅんきゅん締めながら言っても説得力ねえっっの!』
『こんな惨めな格好で犯されて、その上乳首強く捻り上げられてイクなんて』
『……とん真性のマゾ雌牛だなお前っ』

『だ……から……っちが……っ♡ うあ、ああ、あああ、あああっ♡』
『この乳首マゾが……っ右乳首シコいただけでビクビクイキまくってやがるっ』
『やべえこの膣内の痺撃……っくそ……っもう射精るぞオラ……っ!』
『うあっ! 止めっ出すなっ』

『出すなああああっんああアアアっ♡』

親指の先っぽ程に張り詰め、桃色に染まった特大の勃起乳首をしこき立てられながら膣内の奥で熱い子種を注ぎ込まれる感触に、今まで全く経験した事のない程の圧倒的な絶頂間に押し上げられる女戦士。

『あア……♡んっふうふう……っ♡ふっ……♡ふっふうふう……♡』

その膣内は望まぬ苦の子種をねたる様にうねり、男根を搾り尽くそうとうこめく。

意思とは無関係の所で、

凌辱者達に屈服していく自らの身体に、戸惑い絶望する彼女であった……

……凌辱は止まらない。
ニンゲン達の多くは、
ツノツキに深い恨みを持っている。
この村の者にも、
血縁をツノツキに襲われ
失った者は少なくない。
それだけにツノツキの
女戦士への凌辱は執拗な物だった。

痛みを与える事よりも
望まぬ快感を覚えさせる事の方が
誇り高い女戦士にとっては
屈辱であると知るや、
男達は彼女の敏感な
部位を探り当てる事に執心し、
連続する絶頂の波に彼女を叩き落とす……

「いやっだめっ♡ちくっびっ♡
イクっ♡おまんこイクっ♡ううううっ♡
やべ…コイツの絶頂マンコたまんね…
おおお射精…っ！
うあ…っ♡うあああ…っ♡
やっぱり右乳首の反応が最高だなコイツ…
『評論はいから早くしやがれよっ何人待ちだと思っただっ！』
あう…♡また…膣内で…っ♡
もお…ちんぽ…やだア…っ♡…もお…イかせ…ないでよおお…っ♡」

「どうだア…俺の精液はよ…
たっぶり膣中に溜まっていくのが分かるか…？」
「うう…もお…精液…やらあ…」
「おら舌出せ…お前を孕ませるのは俺だぜ…っ」
「んう…♡んううう…♡」
「だから早くしろって全くよお…」

子宮口に亀頭の先をみっちりと埋め込まれ、
子宮内に雄汁を一滴残らず注ぎ込まれながら
ねっとり舌を吸われる女戦士。
「快樂で痺れきった身体は
最早抵抗の素振りも
全くみせる事が出来なかった……」

……丸一日続いた凌辱もひとまずは区切りがつく。
大量の精液は、体中を汗と共に濡らし、
膣内からは愛液と共にこぼこぼと溢れ出している。
執拗な愛撫で望まぬ絶頂を
繰り返させられた
ツノツキの女戦士の身体は
ヒクヒクと未だに痙攣を続け、
凌辱で与えられた
快感の深さを物語っていた……

『あう……♡うう……♡あううう……♡
犯つてなんだが
すげえことになってるなこりゃ』
『この全員が一周以上犯ってるからな
少なくとも三十発以上は
膣内にぶち込んだ筈だぜ』
『うう……やらあ……にんしん……やらあああ……』
『お前ら右乳首シコきすぎだろw
ちよっと伸びちまってるんじゃねーか？』
『お前だつてやっつる最中思いっきり
転がしてたじゃねーかよw
コイツの乳首の反応が良すぎんのが悪いだけだつて』

『へへコイツもあのローグみたいに孕ませて
たっぶり母乳搾つてやる日が楽しみだな……』
『やべ見るとまた勃つてきた……』
『そろそろ仕事に戻らなきゃなんねーから
今日は打ち止めて決めただろ』
『おう……せめて最後に一発ぶっかけてやる』
『そうだな俺も……っおらああああつ！』
『お……っ射精るっ！』
『やあ……っ！あう……ざーめん……』
もお……やああ……♡』

男達は女戦士の体中に
雄汁をぶちまける。
まだ孕ませたい欲求があるのか、
犯され過ぎてはっくりと
口を開いたままの
膣内を狙う者も多かった。
その熱い精液の感触に、
再び軽く絶頂する彼女……
……凌辱の時間は、
まだ始まったばかりである……

以上、僕らのサーガ戦火ネタでしたー
ここからは『WORKING!!』種島先輩です。



服を着るよりも裸のほうが可愛らしい
裸のほうが可愛らしい
乳も垂れるから可愛い。

◎6頭身ちゃれんじ#1

OPの種島先輩を見て、むらむらとロリ巨乳を描きたい欲望に駆られた結果がこれだよ！
いつぞやのルイズの時も色々試していたのですが、
「6頭身でどの位までならおっぱい大きくしても自分的に大丈夫か？」
という疑問の元に描き散らしたラブです。



◎6頭身ちゃれんじ#2

横から見たパターンの確認と慎重退避 身長対比。
 やっぱり何か色々間違ってる気もするけど、気にしない。
 いやむしろ気にならない。…まずい傾向だろうか…
 そういやかたなし君的に種島先輩のけしからん乳はありなのだろうか
 まだアニメではそっちに言及した回はないけど、原作ではどうなのかなー



◎6頭身ちゃれんじ#3

身長差がある場合は后背座位が映えると思う。
後は密着正常位もエロいと思うけど、
今回はおっぱいサイズの検証がメインなので難しい。

後書

えー

ということで、
今回は3月にまた入院しーの、商業の方で原稿がありーので折本となりました…。

今回のネタは『僕らのサーガ』と『WORKING!!』。

『僕らのサーガ』はニコニコ遊園地での
村ゲーと呼ばれるジャンルのブラウザゲームなのですが…
始めたのはまあ操作量も多くないみたいだし、
PCの前に作業中ずつという自分には向いてるかなと思ったからなのですが、
(それ自体は間違ってたみたいですが。操作が数時間に1回とかなので、
作業中の邪魔にほとんどならないってのは丁度いい…)
もうバグだらけで凄い有様に阿鼻叫喚の渦。
バランスが云々とかそういう次元を遥かに越えた何か。
『ひゃつは一水だ飯だ廿だ一』
としたりされたりしたいよ！と思っていたら、
四六時中ひゃつは一される一方、
しかもひゃつは一してるのは他のプレイヤーじゃなくて運営。
ひゃつは一されてるのはプレイヤー全員。
そんな気分です…wまあβだから仕方ないんですけどね…
まあMMOとかやってた時もβのgdgd感が大好きだったので結構楽しんでますが、
現時点ではかなりのマゾにしかおすすめてできません。
なんかUOの時代を思い出してしまいました。
…思えば遠くに来たもんだ…

で、もう一つはHPで告知もしてましたが『WORKING!!』の種島先輩。
あのロリ巨乳にアスミスほいすでのちっちゃくないよ！は破壊力凄い。
今期アニメでは一番楽しんでるかなー？
今の所小鳥遊君のフラグは伊波とばかりですけど、
種島先輩ともフラグは立ったりするんだらうか…
『とらドラ』とか『化物語』の時もそうだったので、
今期一番！ってアニメはとりあえず終わるまでは
原作断ちする派なので、続きが気になって仕方ないです…

ということで今回はこれにて。
また宜しくお願いします。

2010/04/29

-興付-

誌名： 「僕らの性」
発行日： 2010年04月29日
印刷所： POPLSさん
発行者： 沙悟狂
瀬浦沙悟

発行者連絡先：
E-mail： ser@fx.sakura.ne.jp
HPURL： http://www.fx.sakura.ne.jp/~ser/

禁・無断転載・複製

2010 SPRING



SAGO-10